

社会生活や経済活動を支える地域の基礎インフラの集中保全

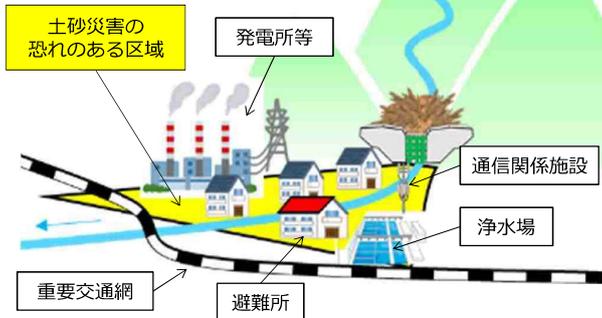
○ 豪雨、火山、地震などに起因するあらゆる土砂災害リスクに対して、ハード施設により確実に「いのち」を守ることに加え、物流ネットワークや電力、水道、通信等の基幹施設、学校や医療関係施設など「暮らし」に直結する基礎インフラを集中的に保全

いのちを
まもる

くらしも
まもる

■ 最近の被災事例 (平成30年7月豪雨)

■ 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策 (インフラ・ライフライン保全)



重要交通網などの道路ネットワークや発電所、浄水場など生活インフラの基幹施設のうち、特に重要な箇所について集中的に保全対策を実施

これくらしを守る土砂災害対策を更に深化

3か年緊急対策後も引き続き保全対策を推進するとともに、特に住民の生活や経済を支える集落の基幹的機能（生活インフラや学校、病院など）が集積する集落拠点エリア及び複数の拠点エリアをネットワークする道路など施設を保全する対策を計画的、集中的に推進



地域の防災力を高める警戒避難体制の強化

- リスク情報の高度化を図るとともに、より分かりやすく伝えることで地域住民と認識を共有し、確実な「命を守る行動」へ繋げる
- 自助・共助を強力に支援し、住民を含む多様な主体の取組により地域全体の防災力を向上

■ 土砂災害警戒区域等の抽出精度向上

■ 土砂災害警戒区域の現地表示の促進

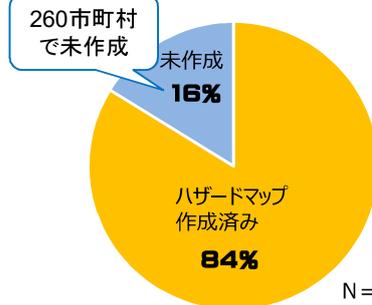
みんな
で
まもる



普段の生活の中で人目に付く箇所に標識を設置することで、土砂災害に対する危険性などについて認知度を向上

令和元年東日本台風等では、土砂災害警戒区域に指定されていない箇所でも人的被害を伴う土砂災害が発生

■ 土砂災害ハザードマップ等の作成支援



ハザードマップの作成、地区防災計画の策定、避難確保計画の策定などに対して強力に支援することで、地域の防災力を向上

高精度な地形データを用いた基礎調査を促進することで、警戒区域の精度向上を図り、「区域外」で発生する土砂災害を最小化